

授業科目

相談援助演習V

担当教員名 河野 聖夫	対象学年	4	対象学科	社会
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	○	◎	◎

授業の概要

社会福祉士の実践事例や国家試験における事例（過去問題）を題材として、個人およびグループでの事例検討に取り組む。取り組みを通じて、社会福祉士として必要となる判断力や思考力を高めるとともに、知識の拡大と活用を目指していく。単なる正解探しではなく、実践場面に適応していける基盤が持てるように、他者の意見にも耳を傾けながら柔軟に思考していく訓練の場とする。個人およびグループでの検討を行なうなかで、自らの意見を述べ、説明できるように取り組んでいく。（少人数制によるクラス別での実施となる）

授業の目的

社会福祉士に求められる基本視点、知識、技術の習得を目指して、具体的な実践事例への取り組みや考察を図る。主体的な取り組みと事例への考察・検討を通じて実践事例への考察力を高める。実践（事例）場面に対する理解力、判断力を身につける。

学習目標

1. 「自己覚知」の視点から考え振り返る
2. 「相談援助の基礎知識」から実践事例を考察する
3. 「相談援助の理論と方法」の視点から実践事例を検討し考えを述べる
4. 「社会福祉の分野と専門性」の視点から実践事例を考察し理解を深める
5. 「総合的かつ包括的な相談援助」の視点から考え判断する

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	授業の進め方や学習課題に関するオリエンテーション；取り組み方法やテーマ、目的などを理解する。	講義・演習（アイス・ブレイキング）；教員より説明を受け、課題に取り組む。	河野、丸田、横山、寺田、藤沢、武井、山口、片山、後藤
2	模擬事例への取り組み1；教員より提示される実践事例について考察し、意見を述べる。	個別演習；提示された課題に取り組み発表するとともに、成果をまとめて提出する。	河野、丸田、横山、寺田、藤沢、武井、山口、片山、後藤
3	模擬事例への取り組み2；教員より提示される実践事例について考察し、意見を述べる。	グループ演習を通じて意見をまとめる。発表を行い、教員よりの指導と解説を受けて、振り返りを行なう。	河野、丸田、横山、寺田、藤沢、武井、山口、片山、後藤
4	相談援助事例への取り組み1；教員より提示される実践事例について考察し、意見を述べる。	個別演習；提示された課題に取り組み発表するとともに、成果をまとめて提出する。	河野、丸田、横山、寺田、藤沢、武井、山口、片山、後藤
5	相談援助事例への取り組み2；教員より提示される実践事例について考察し、意見を述べる。	グループ演習を通じて意見をまとめる。発表を行い、教員よりの指導と解説を受けて、振り返りを行なう。	河野、丸田、横山、寺田、藤沢、武井、山口、片山、後藤
6	相談援助事例への取り組み3；教員より提示される実践事例について考察し、意見を述べる。	これまでの授業を踏まえて継続的な振り返りを行い、各自の成果を発表して、教員よりの指導・解説を受ける。	河野、丸田、横山、寺田、藤沢、武井、山口、片山、後藤
7	分野別事例への取り組み1；教員より提示される実践事例について考察し、意見を述べる。	個別演習；提示された課題に取り組み発表するとともに、成果をまとめて提出する。	河野、丸田、横山、寺田、藤沢、武井、山口、片山、後藤
8	分野別事例への取り組み2；教員より提示される実践事例について考察し、意見を述べる。	グループ演習を通じて意見をまとめる。発表を行い、教員よりの指導と解説を受けて、振り返りを行なう。	河野、丸田、横山、寺田、藤沢、武井、山口、片山、後藤
9	分野別事例への取り組み3；教員より提示される実践事例について考察し、意見を述べる。	これまでの授業を踏まえて継続的な振り返りを行い、各自の成果を発表して、教員よりの指導・解説を受ける。	河野、丸田、横山、寺田、藤沢、武井、山口、片山、後藤
10	社会資源への取り組み1；教員より提示される実践事例について考察し、社会資源への理解を深める。	グループ作業（事例検討）；必要となる社会資源について調べるとともに、その内容を説明できるように確認する。	河野、丸田、横山、寺田、藤沢、武井、山口、片山、後藤

11	社会資源への取り組み2；教員より提示される実践事例について考察し、社会資源への理解を深める。	個人作業（事例検討）；必要となる社会資源について調べるとともに、その内容を説明できるように確認する。	河野、丸田、横山、寺田、藤沢、武井、山口、片山、後藤
12	社会資源への取り組み3；教員より提示される実践事例について考察し、社会資源への理解を深める。	各自の取り組み内容や成果を発表して、相互に意見交換を行い、検証する。	河野、丸田、横山、寺田、藤沢、武井、山口、片山、後藤
13	社会資源への取り組み4；教員より提示される実践事例について考察し、社会資源への理解を深める。	各自の取り組み内容や成果を発表して、相互に意見交換を行い、検証する。	河野、丸田、横山、寺田、藤沢、武井、山口、片山、後藤
14	社会資源への取り組み5；教員より提示される実践事例について考察し、社会資源への理解を深める。	各自の取り組み内容や成果を発表して、相互に意見交換を行い、検証する。	河野、丸田、横山、寺田、藤沢、武井、山口、片山、後藤
15	まとめ	教員よりの解説・指導を受け、学びの成果や課題などの振り返りを行なう。	河野、丸田、横山、寺田、藤沢、武井、山口、片山、後藤

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書						
参考書						
その他の資料						

評価方法

発表、成果ノートの内容に基づいて達成度や努力度を評価する。発表や成果物の完成度、正確性および積極性を質（50）と量（50）から評点する。成果物（レポート、学習ノート）の提出と、毎回の発表（発言）が必須である。

履修上の留意点

少なくとも社会福祉士国家試験に対応できる専門用語や諸制度への理解が必要となるので、3年次までの学習内容を各自で復習して授業に臨むこと。主体性を持って自ら考え、調べ、理解を深める姿勢を持つこと。

オフィスアワー・連絡先

第2研究棟 E305研究室（河野） 授業後の時間帯の1時間程度（開講時期に限る） および、火曜日 3時限（前期のみ）
kouno@nuhw.ac.jp *クラス担当教員への相談等については、社会福祉学科合同研究室に申し出る。（随時）